



神奈川の風



平成27年9月14日号

校長 吉江 明洋

< 一生懸命の姿が一番美しい >

二つの台風の接近とともに始まった長雨も、北関東では記録的な豪雨で特別警報が発令され、鬼怒川が決壊するなど甚大な被害が報道されています。あらためて自然災害の恐ろしさを実感した先週でした。



さて、9月26日(土)は第66回となる体育祭です。本格的な学年練習も始まり、18日(金)には予行が行われます。学級で取り組む大縄跳びの練習の様子を見ていると、今年の体育祭も昨年以上の盛り上がりが見込まれて当日が楽しみになります。

個々それぞれに得手不得手があり体育的な活動が苦手な人もいますが、全員でいかに真剣に取り組むかが大切なのです。これは、勉強でも遊びでも同じことがいえます。仲間の中に気を抜いて参加している者が一人でもいると、楽しい遊びも白けてしまい、つまらないものになってしまいます。照れくささや運動が苦手なのを隠すために、ダラダラとふざけ半分でごまかそうとする姿は醜いものみにくですし、全体の雰囲気ふんいきを壊すだけです。



下手でもいい、失敗してもいい、全員が心をつにして一生懸命にやる姿こそが美しく、見ている者の感動を呼ぶのです。気を抜いていいかげんにやっても、何も得るものはありません。真剣に精一杯やってこそ、本当の楽しさが体感できるのです。

最近、様々な種目の日本代表選手が大会出場にあたってのインタビューで「楽しみたい」と発言するのを多く耳にします。表面的に受け取ってしまうと、不謹慎ふきんしんにすら思ってしまう言葉ですが、それまでの練習の真剣さや、苦勞を乗り越えてきたからこそその自信の表れであると思います。ただ面白おかしく楽しむのとは訳が違ふ、とても意味の深い思いが込められているはずで

毎年呼びかけていることなので2・3年生は十分に理解しているはずですが、初めて中学校の体育祭を経験する1年生は、この考え方や精神が神奈川中の伝統となっているので、しっかり身につけて今後の中学校生活の指針ししんとしてほしいと思います。



また、3年生は中学校最後の体育祭です。学校のリーダーとして、「神奈川中の3年生はこうあるべき」と、3年生全員の心意気を観客や下級生に示してほしいと願っています。そして、その姿を見た2年生が「私たちも来年は…」と、思わせることが伝統を引き継ぐ者の役割であると思います。

全校生徒一丸となり、観客の方々と一体となった、真に楽しめる体育祭を期待しています。